

ドイツ兵捕虜から贈られたボトルシップの発見について

この度、第一次世界大戦中、現在の習志野市東習志野に設置され、ドイツ兵捕虜を収容した「習志野俘虜（ふりょ）収容所」に関わる資料「ボトルシップ」が習志野市に寄付された。同収容所に収容されていたドイツ兵捕虜が作製し、地元の住民に贈ったとされるボトルシップの発見は、これが2例目となる。

1. 寄付者

千葉市花見川区長作町在住 小川 勝利（おがわ・かつとし）氏

2. 寄付申出の受諾日

平成25年4月15日

3. 寄付に至る経緯

平成25年3月、小川勝利氏からの電話を受けた。内容は、小川氏のお宅にボトルシップがあるというもの。以前、同収容所に関する新聞記事で、習志野市が所蔵するボトルシップの存在を知り、連絡をくださったとのこと。後日、社会教育課職員がボトルシップを拝見し、ボトルシップを所有するに至った経緯をうかがった。

4. 小川氏からの聞き取り内容

寄付していただいたボトルシップは、元は小川勝利氏の母親である小川フミ氏が、父親の形見として大切に保管していたものである。

ボトルシップを所有するに至った経緯については、フミ氏の父親が、フミ氏が生まれる前に亡くなってしまったため明らかではないが、父親は生前、現在の習志野市大久保で八百屋を営んでおり、ドイツ兵捕虜が収容されていた同収容所に野菜を届けていたことから、その時に知り合ったドイツ兵捕虜から、このボトルシップを譲り受けたのではないかと小川氏は語る。

5. 1本目のボトルシップについて

現在、習志野市が所蔵している1本目のボトルシップは、平成9年（1997）に習志野市津田沼在住の歌田實（うただ・みのる）氏から寄付されたものである。これは、小学校の教諭をされていた歌田氏の母親が、学童を連れて同収容所の見学に行ったところ、ドイツ兵捕虜の一人からプレゼントされたものと伝わっている。

6. 今後の予定

平成25年5月15日（水）から6月14日（金）まで、JR津田沼駅南口連絡所（モリア津田沼レストラン棟7階）において、2本のボトルシップを展示する予定である。

7. 本件にかかる問合せ先

習志野市教育委員会 生涯学習部

社会教育課 文化財係（担当 白鳥・金谷） TEL 047-451-1151（内線 462）